

[た よ り]

愛知県透析医会だより

渡邊有三

愛知県透析医会は今年設立 30 周年を迎えることになりました。秋には北海道の大平整爾先生をお招きして、記念講演会と会員パーティを企画しています。小生は初代の成田真康先生（成田記念病院長）、2代目の太田和宏先生（新生会グループ元理事長）、3代目の鈴木信夫先生（研信会グループ理事長）、4代目の山崎親雄先生（増子記念病院院長）と錚々たるメンバーによって引き継がれた会長職を、平成 13 年から継承し、現在に至っています。

30 周年を迎えるにあたって 20 周年の記念誌を繙いてみると、愛知県透析医会は日本透析医会発足の原動力であったとの記載があり、その歴史の重みに驚きました。小生は昭和 50 年の卒業であり、研修医を終え、自分が初めて透析治療に手を染めた頃には、すでに太田和宏先生や愛知腎臓財団を作られた中京病院の故太田裕祥先生らが、愛知県のみならず日本全体を見回しての透析医療について奔走しておられたわけであり、そのエネルギーのすごさと先見力には驚くばかりです。実際、会長職を拝命してから 7 年になりますが、何も実績を残せなかったのではないかと忸怩たる思いにかられています。

しかし、繰言を言ってばかりでは始まらないので、最近の愛知県透析医会の取組みについて簡単にご紹介したいと思います。毎月 1 回総務委員会を開催し、透析に関わる様々な問題について議論しています。また、愛知県国保審査委員会、社会保険審査委員会には透析医療に堪能な医師をそれぞれに派遣していますので、保険審査に関わる様々な疑問について回答したり、愛

知県での取り決めについて相談したりしています。また、9 月 1 日には災害対策訓練を実施し、愛知県内の透析医療機関全部を網羅する情報ネットワークの訓練を行っています。特筆すべきことは、透析医会主催にて年 2 回の「透析リスクマネジメント研究会」を開催していることです。この取組みは山崎親雄先生が日本透析医会の会長として厚生労働省の班研究に携わっておられた頃に、愛知県全体で院内感染による肝炎撲滅を目指した研究会を発展させたもので、毎回 300 名近い出席があります。また、毎月 1 回は自立支援医療審査会を愛知県、名古屋市の健康福祉部の担当者と協同して開催し、愛知県全体の透析医療が均質に行われるよう審査を行っています。また、愛知腎臓財団と協力して移植啓発事業にも参加しています。年末には研修委員会を開催し、昼はゴルフコンペ、夕方から特別講演を拝聴し、その後会員懇親会という流れで、会員同士の親睦を深めています。

今年は 30 周年を契機に、会員を透析施設の開設者や責任者だけでなく、もっと若い医師に会員になっていただき、災害対策の時などに実際に働ける医師の情報を集めることのできるメールシステムを構築したいと考えています。大きな先輩の後に会長を務めることは難儀です。しかしながら、微力でも当地区の透析医療の発展のために貢献したいと考えています。愛知県透析医会の活動に今後ともご支援いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。